

平成 30 年 6 月 15 日現在

機関番号：11601

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2017

課題番号：15K04536

研究課題名(和文) 発達障害者の就労支援 デンマークの自閉症スペクトラム者へのIT教育の試みに学ぶ

研究課題名(英文) Employment Support for the youth with developmental disorders- inspired by the IT education for the ASD people in Denmark

研究代表者

青木 真理 (AOKI, Mari)

福島大学・総合教育研究センター・教授

研究者番号：50263877

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,600,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は、青年期の発達障害者の就労に焦点をあて、デンマークの事例を調査し、就業支援のありかたを探究することである。

研究期間中、毎年デンマークを訪問しデンマークの教育と就労支援を研究し、それを日本で生かす可能性を探究した。その成果は、2017年8月に出版した谷雅泰・青木真理編著『転換期と向き合うデンマークの教育』および、2017年11月24日に福島大学で市民対象に開催した「みんなが活躍できる社会をどう構想するか デンマークに学ぶ」と題するシンポジウムに結実した。

研究成果の概要(英文)：The aim of this study was to focus on the employment of the youth with developmental disorders, survey the cases found in Denmark, and discover how employment support for the youth with developmental disorders should be.

We visited Denmark once per a year during the study period, investigated the education and employment support for the youth in Denmark seeking for the possibilities to make use of the result of the investigation in Japan. The result was published as a book named "The Danish Education Facing Its Turning Point" (Edited by TANI&AOKI).

We also held a symposium named "We discuss the society where everyone can be active:Learn from the Danish society" on Nov.24, 2017 at Fukushima University.

研究分野：臨床心理学

キーワード：デンマーク 発達障害 就労支援 特別支援教育

1. 研究開始当初の背景

(1) 研究開始以前の研究

研究代表者らは2005年からデンマークを訪問し、教育および若者支援策についての聞き取り調査を行ってきた。この期間はおりしもデンマークの教育施策の大きな転換期に重なり、ほぼ毎年訪問調査するなか急激な変化を目の当たりにすることになった。

(2) その研究で明らかになったこと

それらの調査により以下4つのことを明らかにした。

- i) デンマーク若者支援の方針は、“すべての若者が教育を受けて労働市場に参画する仕組み”をつくることである。
- ii) 若者のキャリア選択を支援するためにガイダンスの改革が行われた。
- iii) 特別ニーズを持つ人の教育と就労についての制度整備も行われている。そのひとつにSTU(特別ニーズを持つ青年に対する教育)がある。
- iv) STUのひとつのAspIT(アスピット)の始動・拡大: 自閉症スペクトラム障害(以下ASD)で平均以上の知能をもつ人を対象にした民間のIT教育であり、高い就職率を示して高評価を得、次第に拡大しつつある。

2. 研究の目的

これらの研究成果を受けて本研究ではデンマークで発達障害者を就労につなげる教育に焦点を合わせ、その実態を詳細に調査すること、そして日本の発達障害者就労支援のモデルに活かす可能性を検討することにした。

3. 研究の方法

(1) AspITの調査と分析

AspITは、コンピュータの仕組みがASDの人たちの発達特性にフィットすることを最大限に活用して教育を行い、就労につなげようとするプログラムであり、2014年現在、ほぼ80%の就労を実現している。AspITが成果を上げていることの要因を分析する。

(2) そのほかの施設の調査

AspITが対象とする青年の人数は限られているので、IT教育以外の分野で発達障害などの特別なニーズを持つ青年の教育と就労支援を行う施設を調査する。

また、青年の教育を選択するのを支援するガイダンスセンターにも聞き取りを行い、発達障害者の教育の選択、就労を実現するプロセスについて明らかにする。

(3) 日本での発達障害者の就労支援について、シンポジウムを開催してディスカッションを行い、その成果に基づき就労支援のプロセスについてのモデルを作成し提案する。

日本でシンポジウムを開催し、これまでの研究成果からデンマークの発達障害者のキャリア選択・就労支援のプロセスを紹介し、日本でキャリア選択、障害者の就労に関わる

人とともに議論する。その議論をもとに、日本で実現可能なプロセスモデルを作成する。

4. 研究成果

(1) AspITなど、ASD青年へのIT教育の実態、成功の要因

デンマークでASD青年へのIT教育を行う場として、AspIT、Specialisterne(スペシャリスターネ)という二つの場所を調査した。どちらも、ASD青年の発達特性(直観的・視覚的理解の優位、興味を持つ分野への徹底した集中)を“強み”としてコンピュータ教育に活かそうとするものである。具体的な表現としてAspITはASDの特性を「焦点が絞られた才能」と表現し、Specialisterneは「欠如ではなく価値である」と表現している。少数教育であること、実践的な教育内容、インターンシップの重視が共通している。

AspITの特徴として、インターンシップにおけるメンター制度がある。インターンシップ受け入れ企業のメンター候補者がAspITのメンター研修コースを受ける。メンター制度はAspITの学生がスムーズにインターンシップを修了するために大きな助けになっている。インターンシップは企業にとっても高いIT能力を有する人材を受け入れる利益をもたらし、またインターン学生にあわせて行った企業内の環境や手続きの改善がいわばユニバーサルデザインとして企業のスタッフたちにも有効なものと評価されている。

一方、SpecialisterneはIT企業部門と教育部門から成り、教育を終えた青年を自社で雇用することも可能である点が特徴的である。

どちらの教育においてもIT教育とならんで青年の社会性を育てるという課題に関して工夫を凝らしている。ASDの発達特性を「強み」として活かしつつ、社会の一員としての基本的なふるまいを身に付けることも必要と考え、その実現に向けての様々な方策をとっている。

こうしたASD特性を「強み」として活かすことと、必要最低限の社会参加のためのスキルを無理のない範囲で身に付けることを目指すという2本立ての教育が、ASD青年のキャリア選択、社会参加の実現を可能にする重要な要因であると考えられる。

(2) IT以外の分野での就労支援についての調査

IT以外の分野で、発達障害を持つ青年への教育と就労支援を行う場所のひとつ、Grennessminde グレンネスミンネは、手工業、農業、調理など多彩な工房での訓練を行う。この施設は当事者が有するリソースを重視し、ひとりひとりにカスタマイズした教育内容を持ち、多彩な工房での訓練を通じて多業種への就労実現を目指している。また質の高い製品を生産し、消費者・地域への貢献も大きい。

(3) 発達障害など特別なニーズを持つ青年の就労支援における重要な要因について

IT教育のAspIT, Specialisterne, 手工業教育を行う Grennessminde に共通するのは、障害特性に配慮すること、当事者の発達特性を含めた内的リソースを強みとして活かすこと、そして教育・訓練の結果生み出される生産物(技術、製品)が地域・社会・消費者に貢献することである。当事者、教育機関、社会の3者にとっての利益を生み出すという視点に注目すべきである。

(4) 『転換期と向き合うデンマークの教育』著書の出版

28年度までの研究成果をまとめ、谷雅泰・青木真理編著『転換期と向き合うデンマークの教育』を2017年8月に出版した。

(5) 障害を持つ青年の社会参加を実現するための手立てを考える

2017年11月24日に「みんなが活躍できる社会をどう構想するか デンマークに学ぶ」と題するシンポジウムを福島大学で開催した。デンマークの特別支援教育・若者支援の専門家、福祉型専攻(障害を持つ青年が特別支援学校高等部を卒業後学ぶ場)を福島につくるところを目指す団体の代表、キャリア教育の専門家をシンポジストとして議論を行った。その中で明らかになったことは以下の点である。

デンマークの教育改革の中で今、焦点が当たっているのは、義務教育後の教育を受けるためのレディネスの整っていない少数の青年をターゲットにそのレディネスを引き上げることである。それは、すべての人がそのコンピテンスを活かして社会参加していくことを実現するために喫緊の課題と考えられている。つまり、教育改革、ガイダンス改革、職業教育改革に通底するのは、その少数弱者のレディネスの引き上げである。くわえて教育と雇用にスムーズに参加できない青年への支援の新しい枠組みとして、Youth Unit が案出され、その中に既存の様々な支援リソースが組み込まれて統合されている。

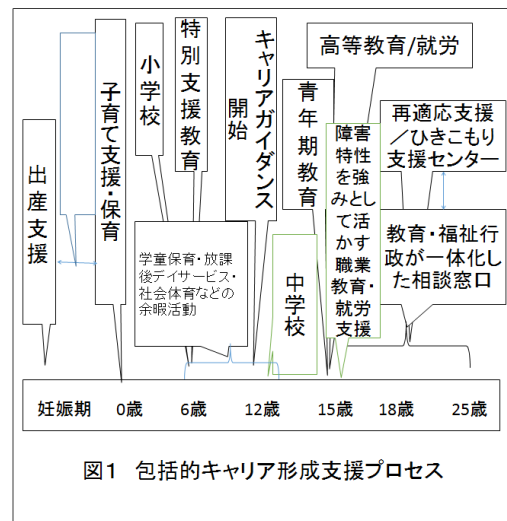
日本で「みんなが活躍できる社会」の実現を目指すためには、デンマークのように、比較的少数の弱者を対象に、内的リソースを強みとして活かす視点から教育と就労支援の仕組みをつくる必要がある。またそのためには、既存の組織ありきの行政サービスから子ども・青年・市民を中心においた行政サービスへの転換を図ることも重要である。

(6) 今後の研究課題～日本ですべての人が社会参加できる仕組みを実現するための包括的キャリア形成支援プロセス研究

本研究では開始当初、発達障害者の充実した就労を実現するためのプロセスモデルを検討することを目的としていたが、研究を進

めるにつれ、より広範囲のモデルを想定する必要性を感じるようになった。今後の研究課題として、障害者のみならずすべての人が社会に貢献できることを支援する包括的なキャリア形成支援プロセスのモデルを検討する必要があると考えている。

デンマークのキャリア形成支援の根底にある理念は、市民中心主義、生活者の民主主義(小池2017)であり、ゼロ歳児から青年期後期まで切れ目のない支援が整備されている。キャリア形成支援はリソース志向的で、障害の有無、多文化的な背景等個別の状況に合わせた丁寧な支援の仕組みを整備することを目標としている。ところでデンマークは「世界一幸せな国」と言われるが、グローバリズムの潮流との対峙、EU全体が抱える移民・難民問題や多文化間の衝突など、普遍的な課題を抱えた国でもある。その中でデンマークは「生活形式の民主主義」(Hal Cock)の理念のもと「すべての人がその能力を十全に発揮して社会に参加できる」社会の実現をめざし、伝統と新機軸を折衷させつつ改革を続けている。一方、日本は、戦後民主主義の成熟を達成しないまま、不登校、高校中退とその延長にあるといえるひきこもり



の問題を抱え、抜本的な解決の目途が一向に立たない。対症療法だけでない抜本的な解決のためには、主体的に生きる人材養成を行う必要があると考える。図1に、デンマークのキャリア形成支援プロセスに倣って日本で実現したいプロセスモデルを示した。

今後はこの包括的キャリア形成プロセスモデルの実現に向けて、協力自治体において介入研究を行う予定である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計4件)

1. 「スウェーデン・デンマークの保育環境

に関する一考察」柴田卓 『郡山女子大学紀要』 査読有 第52集 pp.191-206 (2016)
2. 「デンマークの ASD 者就業支援の一例について Specialisterne 訪問調査から」青木真理, 高橋純一, 谷雅泰 『福島大学地域創造』 査読無 第28号第1号 pp.58-63 (2016)
3. 「日本とデンマークにおける特別支援学校の比較」高橋純一, 谷雅泰, 青木真理, 『福島大学人間発達文化学類論集』 査読無 第24号 pp.1-11 (2016)
4. 「デンマークの AspIT(自閉症スペクトラム障害の若者を対象にした IT 教育)の訪問調査 その3 コペンハーゲンの新しい AspIT を中心に 」青木真理, 杉田政夫, 谷雅泰 『福島大学地域創造』 査読無 第27号第1号 pp.61-66 (2015)

〔学会発表〕(計1件)

1. 日本教育政策学会会員企画研究会「デンマークの教育改革」谷雅泰, 青木真理, 高橋純一 2018年1月28日 実践女子大学

〔図書〕(計2件)

1. 『新・教職教養シリーズ2020』第10巻第9章「進路指導とキャリア教育」(大山泰宏編) 青木真理 協同出版 現在印刷中 (2018)
2. 『転換期と向き合うデンマークの教育』 谷雅泰・青木真理編著, 杉田政夫, 高橋純一, 柴田千賀子, 柴田卓, 三浦浩喜 ひとなる書房 全252頁 (2017)

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
出願年月日:
国内外の別:

取得状況(計 0 件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
取得年月日:
国内外の別:

〔その他〕

ホームページ等 なし

6. 研究組織

(1) 研究代表者

青木真理 (AOKI, Mari)
福島大学・総合教育研究センター・教授

研究者番号: 50263877

(2) 研究分担者

谷 雅泰 (TANI, Masayasu)
福島大学・人間発達文化学類・教授
研究者番号: 80261717

杉田 政夫 (SUGITA, Masao)
研究者番号: 70320934
福島大学・人間発達文化学類・教授

高橋 純一 (TAKAHASHI, Junichi)
福島大学・人間発達文化学類・准教授
研究者番号: 10723538

柴田千賀子 (SHIBATA, Chikako)
仙台大学・体育学部・准教授
研究者番号: 80639047

杉田 孝子 (SUGITA, Takako)
名古屋芸術大学・芸術学部・准教授
研究者番号: 20367676

柴田卓 (SHIBATA, Suguru)
郡山女子大学短期大学部・幼児教育学科・講師
研究者番号: 60762218

(3) 連携研究者

()

研究者番号:

(4) 研究協力者

()